

# プログラム

会場名	A会場	B会場	C会場	D会場	ポスター会場	
階・部屋	2階・国際会議室	2階・21会議室	3階・32会議室	3階・33会議室	1階・イベントホール	
9月14日 (木)	9:00 受付開始					ポスター発表 (閲覧のみ)  ※11:00までに掲示 してください。
	9:15				口頭発表1D-1 循環型社会 9:30~10:30 田崎智宏	
	9:30	シンポジウム-1 脱炭素社会のための 法政策形成—CCS制度構築に 向けての中間成果から—	シンポジウム-2 学術賞受賞記念シンポジウム 環境に関する認知、 態度変容、行動に関する研究	口頭発表1C-1 化学物質 9:30~10:30 亀屋隆志	口頭発表1D-2 再生可能エネルギー 10:45~12:00 後藤尚弘	
	9:45					
	10:00	柳憲一郎 小松英司 9:30~12:00	青柳みどり 吉田綾 9:30~12:00	口頭発表1C-2 環境モニタリング 10:45~12:00 高梨啓和		
	10:15					ポスター発表・討論 12:00~14:00 コアタイム 12:30~13:30  優秀発表賞審査・投票 14:00〆切
	10:30	12:00 昼休み 12:00~14:00				
	10:45					ポスター発表 (閲覧のみ)
	11:00	シンポジウム-3 地方自治体での 資本基盤マネジメントの実践	シンポジウム-4 廃棄物・資源回収の国際比較	シンポジウム-5 学術賞受賞記念シンポジウム 化学物質の環境安全管理 に関する研究者の取り組み	口頭発表1D-3 環境システム解析 14:00~15:15 原圭史郎	
	11:15	倉阪秀史 松橋啓介 14:00~16:30	沼田大輔 高橋若菜 14:00~16:30	亀屋隆志 高梨啓和 14:00~16:30	口頭発表1D-4 環境情報と環境行動 15:30~16:30 田畑智博	
	11:30					
	11:45	表彰式 17:00~17:30				
	12:00	交流会(若手育成事業表彰式を含む) 18:00~20:00 AIMビル2階「フラミンゴカフェ」				
	12:15					
12:30						
12:45						
13:00						
13:15						
13:30						
13:45						
14:00						
14:15						
14:30						
14:45						
15:00						
15:15						
15:30						
15:45						
16:00						
16:15						
16:30						
16:45						
17:00						
17:15						
17:30						
17:45						
18:00						

会場名	A会場	B会場	C会場	D会場	ポスター会場	
号館・階	2階・国際会議室	2階・21会議室	3階・32会議室	3階・33会議室	1階・イベントホール	
9月15日 (金)	9:00 受付開始					ポスター発表 (閲覧のみ)  ※15:00までに 撤去してください。
	9:15				口頭発表2D-1 環境政策と環境指標 9:30~10:45 栗島英明	
	9:30	シンポジウム-6 アジア地域における持続可能な 消費・生産パターン定着 のための政策デザインと評価	シンポジウム-7 学術賞受賞記念シンポジウム 資源循環研究の展開	シンポジウム-8 室内環境中の代替難燃剤 に対するリスク評価と 今後の展開	口頭発表2D-2 都市と地域 11:00~12:00 小口正弘	
	9:45					
	10:00	平尾雅彦 中谷隼 9:30~12:00	後藤尚弘 田畑智博 9:30~12:00	雨谷敬史 三宅祐一 9:30~12:00		
	10:15					ポスター発表 (閲覧のみ)
	10:30	12:00 昼休み 12:00~13:30				
	10:45					※15:00までに 撤去してください。
	11:00	シンポジウム-9 再生可能エネルギーによる 地域からの社会転換の実践知	シンポジウム-10 アジアにおける廃棄物処理・ リサイクルに由来する環境問題	口頭発表2C-3 環境リスク 13:30~14:45 小林憲弘	口頭発表2D-3 意思決定 13:30~14:45 松本安生	
	11:15	白井信雄 杉山範子 13:30~16:00	戸敷浩介 内藤博敬 13:30~16:00	口頭発表2C-4 環境技術 15:00~16:00 三宅祐一	口頭発表2D-4 国際協力 15:00~16:00 一瀬俊明	
	11:30					
	11:45	後片付け				
	12:00					
	12:15					
12:30						
12:45						
13:00						
13:15						
13:30						
13:45						
14:00						
14:15						
14:30						
14:45						
15:00						
15:15						
15:30						
15:45						
16:00						

※ シンポジウムの枠内の氏名はオーガナイザー、口頭発表セッションの枠内の氏名は座長です。

## 口頭発表（一般発表）

【1日目（9月14日）午前】

---

### 口頭発表 1C-1 「化学物質」

C会場（3階・32会議室）9：30～10：30

座長： 亀屋隆志（横浜国立大学）

- 1C-0930 高分解能質量分析計と多変量解析による水道水生ぐさ臭原因物質の探索  
○新福優太，高梨啓和，中島常憲，大木章（鹿児島大学），下ヶ橋雅樹，秋葉道宏（国立保健医療科学院）
- 1C-0945 化学物質運命予測モデルを用いた水道水の検査対象農薬の選定  
○小林憲弘（国立医薬品食品衛生研究所），小松原由美，江里口知己（(株)サイエンスアンドテクノロジー），五十嵐良明（国立医薬品食品衛生研究所）
- 1C-1000 食品中の多環芳香族炭化水素およびその誘導体の分析  
○増田美里（静岡県立大学）
- 1C-1015 新規土壌汚染物質であるクロロエチレンの土壌中挙動に関する情報整理と解析  
○小林剛，高橋奈津子，河原知希，田小維（横浜国立大学）

### 口頭発表 1D-1 「循環型社会」

D会場（3階・33会議室）9：30～10：30

座長： 田崎智宏（国立環境研究所）

- 1D-0930 **奨励賞受賞記念講演：デポジット制度の経済学的研究**  
○沼田大輔（福島大学）
- 1D-0945 後期高齢者の容器包装プラスチック分別行動の調査  
○田畑智博，片桐恵子（神戸大学）
- 1D-1000 ごみゼロをめざす住民行動の促進要因－福岡県大木町アンケート分析－  
○譚喬尹，近藤加代子，菊澤育代（九州大学）
- 1D-1015 大木町における廃棄物の減量に関する政策の効果の研究  
○徐曉明，近藤加代子，菊澤育代，増田祐介（九州大学）

### 口頭発表 1C-2 「環境モニタリング」

C会場（3階・32会議室）10：45～12：00

座長： 高梨啓和（鹿児島大学）

- 1C-1045 北西太平洋域における台風の卵の発生数および発生位置に関する研究  
○上田有佑，白木洋平（立正大学）
- 1C-1100 夏季晴天日に行われた東京における航空機観測と同期した地上温熱環境モニタリング  
○一ノ瀬俊明，村上大輔（国立環境研究所），Liu Kai（国立環境研究所，筑波大学），三田友規（スカイマップ（株）），西浩司（いであ（株）），常松展充（東京都環境科学研究所）
- 1C-1115 空撮用気球と植生指標カメラを利用したホソウミナ分布の把握手法の提案－千葉県谷津干潟を例として－  
○白木洋平，北沢俊幸，李盛源（立正大学），千賀有希子（東邦大学）
- 1C-1130 未規制有害物質の大気モニタリングにおける異なる調査地点と時間帯での検出事例  
○大橋拓未，石原怜，亀屋隆志（横浜国立大学）
- 1C-1145 全国河川における化管法対象物質とその分解生成物の存在状況  
○亀屋隆志，鈴木拓万，岡田美代子，飯東敏泰，大橋拓未（横浜国立大学），三保紗織（横浜国立大学，いであ（株））

口頭発表 1D-2 「再生可能エネルギー」

D 会場 (3 階・33 会議室) 10:45~12:00

座長: 後藤尚弘 (東洋大学)

- 1D-1045 **奨励賞受賞記念講演**: 持続可能なバイオマスエネルギーの生産と利用の評価に関する研究  
○蒲原弘継 (豊橋技術科学大学)
- 1D-1100 メンタル・モデルを用いたバイオガス利用普及の促進・阻害要因の抽出: 家畜排せつ物を主原料とする北海道・士幌町での取組を事例として  
○浅井真康, 林岳 (農林水産政策研究所), 山本充 (小樽商科大学)
- 1D-1115 風力発電の収支評価に関する分析: 茨城県鹿嶋市および神栖市における既存設備を例に  
○古川将光, 棟居洋介 (東京工業大学), 金森有子, 増井利彦 (国立環境研究所)
- 1D-1130 太陽光発電の急増に伴う景観計画変更のテキスト分析  
○島崎洋一 (山梨大学)
- 1D-1145 農業遺産認定地域における耕作放棄地の統計分析  
○島崎洋一 (山梨大学)

【1 日目 (9 月 14 日) 午後】

---

口頭発表 1D-3 「環境システム解析」

D 会場 (3 階・33 会議室) 14:00~15:15

座長: 原圭史郎 (大阪大学)

- 1D-1400 北九州エコタウンにおける物質フローの長期的変化とその要因分析  
○本田雄暉, 松本亨 (北九州市立大学)
- 1D-1415 新地町における戸建住宅の電力消費パターンの解析  
○平野勇二郎, 中村省吾, 戸川卓哉, 五味馨, 大場真, 藤田壮 (国立環境研究所)
- 1D-1430 冬季朝方の気象条件に対する住宅電力使用量の関係性  
○小田佑馬, 加藤尊秋 (北九州市立大学)
- 1D-1445 水産業における LCA 研究の現状と課題  
○渡邊一仁 (宮城県庁), 田原聖隆 (産業技術総合研究所)
- 1D-1500 舗装道路敷設の二酸化炭素吸収・排出量の評価  
○木田仁廣, 川東正幸 (首都大学東京)

口頭発表 1D-4 「環境情報と環境行動」

D 会場 (3 階・33 会議室) 15:30~16:30

座長: 田畑智博 (神戸大学)

- 1D-1530 データビジュアライゼーションによる情報提供効果に関する研究  
○松本安生 (神奈川大学)
- 1D-1545 家電製品購入の意思決定プロセスにおける効果的な環境情報の提供  
○文多美, 中谷隼, 平尾雅彦 (東京大学)
- 1D-1600 オントロジー工学に基づく心豊かなライフスタイルを記述する語彙に関する考察  
○岸上祐子 (北陸先端科学技術大学院大学), 古川柳蔵 (東北大学), 溝口理一郎 (北陸先端科学技術大学院大学)
- 1D-1615 環境配慮行動の波及性: パネルデータによる実証分析  
○甲斐田直子 (筑波大学)

【2日目（9月15日）午前】

---

口頭発表 2D-1 「環境政策と環境指標」

D会場（3階・33会議室）9：30～10：45

座長： 栗島英明（芝浦工業大学）

- 2D-0930 **優秀研究企画賞受賞記念講演**：将来世代の視点を反映した参加型アセスメント手法の開拓に向けて—自治体でのケーススタディから  
○原圭史郎（大阪大学）
- 2D-0945 地域における「自分らしく生きる」へのアプローチ —大木町の幸福度とマズロー欲求階層説を通して—  
○畢亦凡（九州大学）
- 2D-1000 反（たん）でみる—持続可能性指標のコミュニケーション性を高める—方策  
○佐藤峻（千葉大学）
- 2D-1015 ボランティア・シンプリシティ実践者のライフスタイルに関する研究  
○齋藤悠太，古川柳蔵（東北大学）
- 2D-1030 持続可能な循環社会を支える地域指標の作成に関する研究  
○増田祐介，近藤加代子，菊澤育代，徐曉明，エン旗林（九州大学）

口頭発表 2D-2 「都市と地域」

D会場（3階・33会議室）11：00～12：00

座長： 小口正弘（国立環境研究所）

- 2D-1100 南相馬市を対象とした震災復興及び避難者の動向を踏まえた将来人口の推計  
○今野伊吹，棟居洋介（東京工業大学），金森有子，増井利彦（国立環境研究所）
- 2D-1115 Suomi NPP VIIRS による夜間光データを用いた建物延床面積の推計  
○杉本賢二（和歌山大学），奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）
- 2D-1130 都市の集約化による生活時間・交通行動の変化と自動車CO<sub>2</sub>排出量の推計  
○有賀敏典，金森有子，松橋啓介（国立環境研究所）
- 2D-1145 福島県周辺域における対流性降水分布の抽出と要因に関する研究  
○佐藤勝哉，白木洋平（立正大学）

【2日目（9月15日）午後】

---

口頭発表 2C-3 「環境リスク」

C会場（3階・32会議室）13：30～14：45

座長： 小林憲弘（国立医薬品食品衛生研究所）

- 2C-1330 **論文賞受賞記念講演**：農薬およびその環境変化体の変異原性物質生成能における定量的構造活性相関解析  
○高梨啓和，浜知広，中島常憲，大木章，上田岳彦（鹿児島大学），松下拓，近藤貴志（北海道大学），亀屋隆志（横浜国立大学）
- 2C-1345 一般住宅と幼稚園におけるハウスダスト中の代替難燃剤の実態調査およびリスク評価  
○古川美乃里（静岡県立大学）
- 2C-1400 カーシート中難燃剤の経皮曝露量の推定  
○寺尾琴音（静岡県立大学）
- 2C-1415 鉛土壌汚染地周辺での土壌粒子飛散によるリスク評価手法の検討  
○佐々木佑真，グエンティランビン，姫旭，田小維，小林剛（横浜国立大学）
- 2C-1430 発災直後の廃棄物や有害・危険物の廃棄に関する情報伝達  
○奥田哲士，片岡蘭人，水原詞治（龍谷大学），矢野順也，浅利美鈴，平井康宏（京都大学）

口頭発表 2D-3 「意思決定」

D 会場 (3 階・33 会議室) 13:30~14:45

座長: 松本安生 (神奈川大学)

- 2D-1330 多主体多目的意思決定問題における評価者のグルーピングと変容の可視化に関する研究 —不法投棄現場の汚染修復事業を対象として—  
○藤山淳史, 石井一英, 佐藤昌宏, 鷺尾卓 (北海道大学)
- 2D-1345 ボランティア募集における SNS への期待と現状 —環境活動団体の認識—  
○森保文 (国立環境研究所), 前田恭伸 (静岡大学), 浅野敏久 (広島大学), 犬塚裕雅 (専修大学), 根本和宜 (国立環境研究所)
- 2D-1400 環境学習用生態系アプリの開発と実践  
○中山紘喜 (北九州市立大学)
- 2D-1415 自然とのつながり意識と環境保全政策  
○青島一平 (神戸大学), Chang Youngho (The Singapore University of Social Sciences), 佐藤真行 (神戸大学)
- 2D-1430 ライフサイクル思考に基づく法システム構築に向けての一考察 —廃棄物管理と化学物質管理の接点に着目して—  
○河野真貴子, 平尾雅彦 (東京大学)

口頭発表 2C-4 「環境技術」

C 会場 (3 階・32 会議室) 15:00~16:00

座長: 三宅祐一 (静岡県立大学)

- 2C-1500 **論文賞受賞記念講演**: 製鋼スラグと浚渫土を用いて造成した人工干潟の評価  
○中井智司, 矢野ひとみ (広島大学), 奥田哲士 (龍谷大学), 西嶋渉 (広島大学)
- 2C-1515 超高温可溶化メタン発酵技術による廃棄物系バイオマスの処理とエネルギー回収  
○荒木賢人, 薬師寺佑香, 浅川侑貴, 吉田翔, 石橋康弘 (熊本県立大学), 吉赫哲 (日本プライスマネジメント (株))
- 2C-1530 農薬環境変化体の構造推定のための衝突断面積解析技術の開発  
○橋本扶美, 大葉佐世子, 高梨啓和, 中島常憲, 大木章, 上田岳彦, 門川淳一 (鹿児島大学), 石川英律, 宮本信一 (いであ (株))
- 2C-1545 土壌の熱伝導率の伝導成分についての簡易モデル構築に向けて  
○坂口巖 (鳥取大学), 望月秀俊 (農業・食品産業技術総合研究機構), 百瀬年彦 (石川県立大学), 藤巻晴行 (鳥取大学)

口頭発表 2D-4 「国際協力」

D 会場 (3 階・33 会議室) 15:00~16:00

座長: 一ノ瀬俊明 (国立環境研究所)

- 2D-1500 Analysis on Sector-by-Sector Coverage in National Plans for Adaptation to the Impacts of Climate Change  
○梶井公美子, 野瀬大樹, 中島光博 (パシフィックコンサルタンツ (株))
- 2D-1515 Economic Benefit and Awareness Raising of Community-based Solid Waste Management: Perspective of Waste Bank Activities in Indonesia  
○Indriyani Rachman, Hafizhul Khair, Matsumoto Toru (北九州市立大学)
- 2D-1530 途上国における持続可能な森林保全・管理のための効果的な資金供与: カンボジアを事例として  
○森田香菜子 (森林研究・整備機構), 松本健一 (長崎大学)
- 2D-1545 南極海における海洋保護区の設定: 交渉過程と合意の促進要因  
○大久保彩子 (東海大学)

## ポスター発表（優秀発表賞応募発表を含む）

掲示可能期間： 9月14日（木）9：00～15日（金）15：00（15：00までに各自にて撤去願います）

※ 14日（木）11：00までに、ポスターを所定の場所に掲示してください。

※ 15日（金）15：00を過ぎても撤去されていないポスターは、年会実行委員会が撤去・廃棄しますので、ご了承ください。

発表・討論時間：9月14日（木）12：00～14：00（うち、12：30～13：30は「コアタイム」とします）

※ 掲示期間中、ポスターは自由に閲覧することができますが、14日（木）昼の時間帯を発表・討論時間として設定しています。「コアタイム」には、発表者は必ずポスター前にて発表を行ってください。

P-01 南極上空大気バイオエアロゾルの生物分析による環境解析

○小林史尚（弘前大学）

P-02 Application of Eco-school Models as Teaching and Learning Tools in Namibia

○Shakum Apollos, 荒巻俊也（東洋大学）

P-03 マイクロ建物推定による災害廃棄物発生量予測と仮置場の選定に関する一考察

○尾崎平, 盛岡通（関西大学）

P-04 アルデヒド類の市販試薬における異性体の値付け

○田原麻衣子（国立医薬品食品衛生研究所），神野透人（国立医薬品食品衛生研究所，名城大学），香川（田中）聡子（国立医薬品食品衛生研究所，横浜薬科大学），酒井信夫，五十嵐良明（国立医薬品食品衛生研究所）

P-05 フィールド観測を用いた実践的環境教育の検証—「食育」と協働することによる学習効果—

○清水日香里（酪農学園大学），安藤達哉（洞爺湖ビジターセンター・火山科学館），千田幹太，筒井静子，吉田磨（酪農学園大学）

P-06 統計データを用いた空き家の詳細地域分布の推計手法

○石河正寛，松橋啓介，金森有子，有賀敏典（国立環境研究所）

P-07 農業環境変化体の構造推定のための衝突断面積解析技術の開発

○橋本扶美，大葉佐世子，高梨啓和，中島常憲，大木章，上田岳彦，門川淳一（鹿児島大学），石川英律，宮本信一（いであ（株））

P-08 長良川流域への気候変動・社会変動をめぐるステークホルダーの利害関心の可視化

○岩見麻子（法政大学），馬場健司（東京都市大学）

P-09 反（たん）でみる—持続可能性指標のコミュニケーション性を高める—方策

○佐藤峻（千葉大学）

P-10 Waste Impacts and its Mitigation in Botswana's Conservation Areas: A Field Survey based on Stakeholder Interviews in the Tourism Sector

○Moroka Wedu, 荒巻俊也（東洋大学）

P-11 （欠番）

- P-12 冬季朝方の気象条件に対する住宅電力使用量の関係性  
○小田佑馬, 加藤尊秋 (北九州市立大学)
- P-13 日本・米国間 FTA 締結による温室効果ガス変化の計量分析  
○長谷川俊 (北海道大学), 赤堀弘和 (秋田県立大学), 澤内大輔, 山本康貴 (北海道大学)
- P-14 都市生態系におけるディスプレイサービス評価 ～六甲山系イノシシを事例に～  
○金谷遼, 佐藤真行 (神戸大学)
- P-15 福島県周辺域における対流性降水分布の抽出と要因に関する研究  
○佐藤勝哉, 白木洋平 (立正大学)
- P-16 超高温可溶化メタン発酵技術による廃棄物系バイオマスの処理とエネルギー回収  
○荒木賢人, 薬師寺佑香, 浅川侑貴, 吉田翔, 石橋康弘 (熊本県立大学), 吉赫哲 (日本プライスマネジメント (株))
- P-17 北西太平洋域における台風の卵の発生数および発生位置に関する研究  
○上田有佑, 白木洋平 (立正大学)
- P-18 高分解能質量分析計と多変量解析による水道水生ぐさ臭原因物質の探索  
○新福優太, 高梨啓和, 中島常憲, 大木章 (鹿児島大学), 下ヶ橋雅樹, 秋葉道宏 (国立保健医療科学院)
- P-19 鉛土壌汚染地周辺での土壌粒子飛散によるリスク評価手法の検討  
○佐々木佑真, グエンティエーランビン, 姫旭, 田小維, 小林剛 (横浜国立大学)
- P-20 建築物への木材利用促進による炭素固定効果の評価 一木曾川流域における都市と森林の炭素循環一  
○小野聡, 奥岡桂次郎, 谷川寛樹 (名古屋大学)
- P-21 北九州エコタウンにおける物質フローの長期的変化とその要因分析  
○本田雄暉, 松本亨 (北九州市立大学)
- P-22 未規制有害物質の大気モニタリングにおける異なる調査地点と時間帯での検出事例  
○大橋拓未, 石原怜, 亀屋隆志 (横浜国立大学)
- P-23 建設資材における蓄積と投入・排出をつなぐ物質ストックデータベースの構築  
○藤田恭介, 谷川寛樹, 奥岡桂次郎 (名古屋大学)
- P-24 サメ類の持続可能な管理に向けた課題: 宮城県気仙沼市の事例分析  
○駒形涼 (東海大学)
- P-25 大木町における廃棄物の減量に関する政策の効果の研究  
○徐暁明, 近藤加代子, 菊澤育代, 増田祐介 (九州大学)
- P-26 多摩川上流域における林分構造を考慮した森林蒸発散量推定モデルの構築  
○佐藤博紀, 橘隆一, 福永健司 (東京農業大学)
- P-27 一般住宅と幼稚園におけるハウスダスト中の代替難燃剤の実態調査およびリスク評価  
○古川美乃里 (静岡県立大学)
- P-28 富士山北麓と八ヶ岳南麓のササラダニ群集Ⅱ  
御園生眞美, ○土屋紅葉, 水上乃愛, 手塚佑姫, 河野彩音, 石原加菜 (山梨英和中学校・高等学校)
- P-29 食品中の多環芳香族炭化水素およびその誘導体の分析  
○増田美里 (静岡県立大学)
- P-30 梨が原の溶岩流の違いによるササラダニ、トビムシ群衆の相違  
御園生眞美, ○柳下真凜, 佐野真帆, 清水千暖, 相原乙葉, 輿石葵 (山梨英和中学校・高等学校)

- P-31 カーシート中難燃剤の経皮曝露量の推定  
○寺尾琴音（静岡県立大学）
- P-32 調理残渣抽出物を活用した環境保全型農業の可能性  
御園生眞美，○新谷柚月，中川果穂，波羅日菜子，渡井彩花（山梨英和中学校・高等学校）
- P-33 マニキュア液中に含まれる可塑剤のリスクトレードオフ解析  
○瀬尾真紀子，徳村雅弘，王斎，甲斐葉子，三宅祐一，雨谷敬史，牧野正和（静岡県立大学）

## 企画シンポジウム

### 【1日目】

シンポジウム - 1 9月14日(木) A会場(2階・国際会議室) 9:30 ~ 12:00

#### 「脱炭素社会のための法政策形成—CCS 制度構築に向けての中間成果から—」

プロジェクト名:環境省環境研究総合推進費(2-1603)

「二酸化炭素回収・貯留(CCS)の普及・導入に関する法的枠組みと政策戦略に関する研究」

オーガナイザー 柳憲一郎(明治大学)教授

小松英司(明治大学)専門研究員

挨拶:柳憲一郎(明治大学)教授

趣旨説明: わが国は、2050年までに80%のGHG排出削減を目指しており、一昨年採択されたパリ協定を踏まえ2020年までに26%の削減を公約した。この実現のためには、二酸化炭素回収・貯留(以下「CCS」)の社会実装が必要であり、今まで環境行政ではあまり事例のない超長期管理を含めたCCSの包括的な法規制や政策の整備が喫緊の課題である。

本シンポジウムでは、環境研究総合推進費(2-1603)の支援により実施している、「CCSの導入・普及を促進させる経済的、社会的側面を考慮した法規制や政策戦略」に関する研究の中間成果を報告するとともに、CCSの中長期の社会的制度・政策戦略のあり方に関して議論する。

講演者:①「CCSの総合政策の検討」

柳憲一郎(明治大学)教授

②「CCSの政策評価手法の検討」

小松英司(明治大学)専門研究員

③「CCSの環境経済評価モデルの構築」

板岡健之(九州大学)教授

④「CCSの法・規制の枠組みの構築」

大塚直(早稲田大学)教授

⑤「CCSの社会的受容性に関する国内外の動向」

村山武彦(東京工業大学)教授

総合討論

司会:小松英司(明治大学)専門研究員

シンポジウム - 2 9月14日(木) B会場(2階・21会議室) 9:30 ~ 12:00

#### 学術賞受賞記念シンポジウム

#### 「環境に関する認知、態度変容、行動に関する研究」

オーガナイザー 青柳みどり(国立環境研究所)主席研究員

吉田 綾(国立環境研究所)主任研究員

挨拶:青柳みどり(国立環境研究所)主席研究員

趣旨説明: 環境分野では、環境配慮行動の促進を始めとして様々な場面で人々の環境に関する認知、態度変容、行動に関する調査研究が実施されている。本シンポジウムでは、気候変動および廃棄物分野を取り上げ、以下の2点からアプローチを試みる。第一は、理論的基礎の多くをおく社会心理学分野の合理的行動理論や計画的行動理論によるものである。これらは、コミュニティ・レベルの実践から自治体規模、国全体、さらには国際的な比較まで様々なレベルで実施されてきた。第二のアプローチは、質的な調査方法の併用である。両者を同時に実施することで、より立体的な理解を試みることも行われるようになってきた。さらに、これらの政策的意義、経年的な変遷など、新たな流れについても検討したい。

講演者:①「環境に対する認知、行動に関する研究の潮流」

青柳みどり(国立環境研究所)主席研究員

②「環境行政における制度の導入と住民の理解 : ごみ有料化に関する意識」

阿部晃士(山形大学)教授

③「環境配慮意識の変遷：ISSP 調査による国際時系列比較」

中野康人（関西学院大学）教授

④「環境配慮行動促進要因に関する考察 ～社会的視点からのアプローチ～」

小松 洋（松山大学）教授

総合討論

司 会：吉田 綾（国立環境研究所）主任研究員

**シンポジウム - 3** 9月14日（木） A会場（2階・国際会議室）14：00 ～ 16：30

**「地方自治体での資本基盤マネジメントの実践」**

プロジェクト名：JST/RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域「多世代参加型ストック  
マネジメント手法の普及を通じた地方自治体での持続可能性の確保」

オーガナイザー 倉阪秀史（千葉大学）教授

松橋啓介（国立環境研究所）室長

挨拶：倉阪秀史（千葉大学）教授

趣旨説明：今年度最終年度を迎える JST/RISTEX 採択プロジェクト「多世代参加型ストックマネジメント  
手法の普及を通じた地方自治体での持続可能性の確保」の成果報告を行う。2040年の資本基盤  
の手入れ状況を統計データをもちいて予測する未来シミュレーターの開発と未来カルテの発行、  
千葉県市原市、八千代市、館山市で実施してきたつながり座談会とリソースジェネレータ調査、  
未来ワークショップなどの実践の状況を報告し、その普及可能性について議論を行う。具体的  
には以下の報告を予定している。

講演者：①「未来カルテを活用した自治体での資本基盤マネジメントの可能性」

倉阪秀史（千葉大学）教授

②「人口減少下における小地域の未来地図の作成と活用」

松橋啓介（国立環境研究所）室長

③「地域の人と人とのつながりを把握するーリソースジェネレータ調査からわかること」

栗島英明（芝浦工業大学）教授

④「未来ワークショップでの中高生熟議の成果と課題ー『たてやま未来ワークショップ』  
を中心に」

宮崎文彦（千葉大学）特任研究員

⑤「未来ワークショップが参加者に与える影響ーアンケート調査結果から～」

森 朋子（東京大学）博士課程

⑥「未来ワークショップと子どもの参画ー多世代共創を目指した千葉県市原市での実践より」

佐藤 峻（千葉大学）技術補佐員

⑦「地方自治体での人口ビジョン・総合戦略の現状とその限界について」

新海史紗（千葉大学）技術補佐員

総合討論

司 会：宮崎文彦（千葉大学）特任研究員

**シンポジウム - 4** 9月14日（木） B会場（2階・21会議室）14：00 ～ 16：15

**「廃棄物・資源回収の国際比較」**

プロジェクト名：JSPS科学研究費補助金 基盤研究B

「国際規範の衝突、階層性、調整、融合ー欧州とアジアの循環型社会形成分野を事例として」

オーガナイザー 沼田大輔（福島大学）准教授

高橋若菜（宇都宮大学）准教授

挨拶：高橋若菜（宇都宮大学）准教授

趣旨説明：循環型社会・経済の形成は、今日、国際社会共通の政策課題であり、多様なリサイクルシステムの  
構築が世界各国で進行中である。しかし、適切な回収システムを欠くと、リサイクル率は低迷し、環境

汚染の発生も免れ得ない。こうした観点から、本シンポジウムでは、家庭由来の廃棄物・資源回収に焦点をあて、その国際比較を、政治学・経済学・心理学・政策学の立場から多視点的に行う。具体的には、スウェーデン、日本、中国を対象として、家庭ごみステーション、分別の担い手の行動・意識、デポジットや店頭回収、家電廃棄物回収を事例に、アクターないしは制度の比較分析を行う。

講演者：①「家庭ごみステーションの日瑞中比較」

高橋若菜（宇都宮大学）准教授

②「分別の担い手としてみた住民の行動・意識の日瑞比較」

伊藤俊介（東京電機大学）教授

③「ワンウェイペットボトルの店頭回収の日瑞比較」

沼田大輔（福島大学）准教授

④「廃電子電気機器回収リサイクルの日瑞中比較」

吉田綾（国立環境研究所）主任研究員

コメント

戸敷浩介（宮崎大学）准教授

総合討論

司会：沼田大輔（福島大学）准教授

シンポジウム - 5 9月14日（木） C会場（3階・32会議室） 14:00～16:15

### 学術賞受賞記念シンポジウム

#### 「化学物質の環境安全管理に関する研究者の取り組み」

プロジェクト名：（化学物質管理戦略研究会共同企画）

オーガナイザー 亀屋隆志（横浜国立大学）

高梨啓和（鹿児島大学）

挨拶：亀屋隆志（横浜国立大学）

趣旨説明：化学物質の環境安全管理においては、製造・輸入前の新規化学物質の事前審査や上市後の一般化学物質のリスク評価をはじめ、有害性のリスク懸念がある指定化学物質の安全データシートの流通や排出・移動登録、大気環境保全や水環境保全に向けたモニタリング調査、排出事業者による自主的取り組み、有害廃棄物管理など、様々な対応がとられています。関連する法令は多岐にわたっており、担当の行政部局も多様です。本シンポジウムでは、化学物質のライフサイクルに亘るそれぞれの場面での環境安全管理に関する研究について、大学や研究機関において行われている研究者の取り組みをいくつか紹介し、互いに感じている課題や連携等について議論したいと思います。

講演者：①「化学物質の環境安全管理に向けた研究課題」

亀屋隆志（横浜国立大学）

②「化学物質の生分解性評価における試験濃度及び微生物毒性の影響」

鍋岡良介（一般財団法人化学物質評価研究機構）

③「廃棄・循環過程における化学物質の環境排出量把握に関する取り組み」

小口正弘（国立環境研究所）

④「河川水における有害性懸念物質の一斉分析とスクリーニング調査」

三保紗織（いであ株式会社）

総合討論

司会：亀屋隆志（横浜国立大学）

## 【2日目】

シンポジウム - 6 9月15日(金) A会場(2階・国際会議室) 9:30 ~ 12:00

### 「アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価」

プロジェクト名: 環境研究総合推進費 S-16

「アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価」

オーガナイザー 平尾雅彦(東京大学) 教授

中谷 隼(東京大学) 講師

挨拶: 平尾雅彦(東京大学) 教授

趣旨説明: 持続可能な開発目標(SDGs)では、持続可能な消費と生産(SCP)の実現が1つの目標になっており、多様なステークホルダーによる実践が必要である。アジア地域でも、製品の効率性向上とその普及を目指すアプローチに加えて、あるべき消費と生産の構造を示し、消費側のニーズを転換し、その充足に寄与する施策が求められている。本シンポジウムでは、「消費と生産の相互駆動」「生活者から企業まで多様な主体の活動」「消費における充足性の向上」「SDGsを梃子にしたSCP政策」をテーマとし、異なる学術分野からの研究発表と総合討論を通して、日本およびアジア各国のSCPパターンへの転換を実現する政策デザインについて議論する。

講演者: ①「アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着に向けて」

平尾雅彦(東京大学) 教授

②「目標ベースのガバナンス戦略としてのSDGsの可能性」

蟹江憲史(慶應義塾大学) 教授

③「アジアにおける生産と消費のステークホルダー別の駆動力:生活者、企業、コミュニティに着目して」

田崎智宏(国立環境研究所) 室長

④「製品の環境情報提供と消費者意識:情報媒体に着目したケーススタディ」

中谷 隼(東京大学) 講師

⑤「アジアにおける持続可能な生産のビジョン構築と課題」

松本光崇(産業技術総合研究所) 主任研究員

⑥「事例研究から考えるアジア地域の持続可能な消費と生産のパターン」

劉 晨(地球環境戦略研究機関) 研究員

総合討論

司 会: 平尾雅彦(東京大学) 教授

シンポジウム - 7 9月15日(金) B会場(2階・21会議室) 9:30 ~ 12:00

### 学術賞受賞記念シンポジウム「資源循環研究の展開」

オーガナイザー 後藤尚弘(東洋大学) 教授

田畑智博(神戸大学) 准教授

挨拶: 後藤尚弘(東洋大学) 教授

趣旨説明: これまでに多くの資源循環に関する取り組みがなされてきた。近年はより高効率な資源循環を求めエネルギーのさらなる有効利用、バイオマスの利活用、地域の最適な循環圏の構築域等の試みがなされている。さらには地域産業との連携によって資源循環そのものに付加価値を付けようとする試みもある。一方で、制度や住民意識に関してはこうした取り組みに追いついておらず、慎重な運用が求められている。本シンポジウムでは最新の技術や制度について議論し、今後の資源循環の在り方を議論することを目的とする。

講演者: ①「地域資源循環のモデル化に関する理論的・実践的研究」

後藤尚弘(東洋大学) 教授

②「環境インフラの連携による廃棄物バイオマスからのエネルギー回収」

吉田登(和歌山大学) 教授

③「地域再生を志向した資源循環研究」

田畑智博(神戸大学) 准教授

④「バイオガス生産の多目的化と新たな循環の形成」

蒲原博継(豊橋技術科学大学) 助教

総合討論

司 会：後藤尚弘（東洋大学）教授

シンポジウム - 8 9月15日（金） C会場（3階・32会議室） 9：30～12：00

「室内環境中の代替難燃剤に対するリスク評価と今後の展開」

プロジェクト名：厚生労働科学研究費補助金（H29-化学-一般-004）

「室内環境中の化学物質リストに基づく優先取組物質の検索とリスク評価」

オーガナイザー 雨谷敬史（静岡県立大学）教授

三宅祐一（静岡県立大学）助教

挨拶：雨谷敬史（静岡県立大学）教授

趣旨説明：1990年代に社会問題化したシックハウス・シックスクール問題は、建築基準法によるホルムアルデヒドなどの使用制限、13種の化学物質の室内環境指針値の策定により改善されたが、未規制物質の問題が残っている。特に、電気電子製品やカーテンなどの身近な製品に使用されている難燃剤は、難分解性でかつ蓄積性が高い物質が多く、その一部はヒトへの有害性が指摘されている。また、規制に伴い、次々と新たな難燃剤が開発・使用されており、それらがどのような有害性を示し、どのように曝露されているのかを、本シンポジウムを通して考えてみたい。

講演者：①「室内環境中の化学物質リストに基づく優先取組物質の検索とリスク評価」

雨谷敬史（静岡県立大学）教授

②「室内環境中で使用される高リスク懸念物質のスクリーニング」

小林 剛（横浜国立大学）准教授

③「家庭用品からの室内環境中への化学物質のエミッション評価」

久米一成（東京都市大学）客員教授

小郷沙矢香（静岡県環境衛生科学研究所）主任

④「製品中の代替難燃剤の実態調査とハウスダスト経路の曝露・リスク評価」

三宅祐一（静岡県立大学）助教

徳村雅弘（静岡県立大学）助教

⑤「新規臭素系難燃剤の毒性影響について」

小川久美子（国立医薬品食品衛生研究所）部長

高須伸二（国立医薬品食品衛生研究所）主任研究官

総合討論

司 会：雨谷敬史（静岡県立大学）教授

シンポジウム-9 9月15日（金） A会場（2階・国際会議室） 13：30～15：30

「再生可能エネルギーによる地域からの社会転換の実践知」

プロジェクト名：私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「エネルギー戦略シフトによる地域再生—原子力依存度の漸減と地域自然エネルギーの振興」

オーガナイザー 白井信雄（法政大学）教授

杉山範子（名古屋大学）特任准教授

挨拶：白井信雄（法政大学）教授

趣旨説明：2012年の固定価格買取制度は、再生可能エネルギーの大規模開発による問題を顕在化させた反面、地域主導の再生可能エネルギー事業の活発化をもたらした。後者は依存・疎外型の地域づくりを自立・共生型に転換（トランジション）していく社会実験（ニッチイノベーション）としての意味をもつ。現在、地域新電力によるエネルギーの地産地消やスマートコミュニティの事業化も始まっており、得られた実践知を次の展開に活かしていく段階となっている。

本シンポジウムでは、再生可能エネルギーによる地域づくりを実践してきた先進地、気候変動・エネルギー自治の普及を目指すネットワーク化、さらにはカーボンゼロを目指す韓国済州島、大学キャンパスでの実践等に関する研究成果を共有し、次展開に向けたガイドラインを提案していくための議論を行う。

- 講演者：①「再生可能エネルギーによる地域社会再生のフレーミングとアジェンダ：全国8地域の取り組みから学ぶ」  
白井信雄（法政大学）教授
- ②「環境モデル都市・西栗倉村におけるバイオマスエネルギー導入の歩みと分析」  
井筒耕平（村楽エナジー）代表取締役
- ③「韓国の地域分散型再生可能エネルギー普及のための取り組み：済州島のカーボンゼロアイランド事業を中心に」  
昔 宣希（地球環境戦略研究機関）特任研究員
- ④「欧州と日本の自治体における気候・エネルギー政策に関する新たな枠組み」  
杉山範子（名古屋大学）特任准教授
- ⑤「気候保護政策に取り組む自治体ネットワークの日欧比較の枠組み」  
増原直樹（総合地球環境学研究所）プロジェクト研究員  
杉山範子（名古屋大学）特任准教授
- ⑥「地域分散型エネルギー社会の形成を目指して－千葉商科大学の自然エネルギー100%計画－」  
原科幸彦（千葉商科大学）学長  
鮎川ゆりか（千葉商科大学）教授

総合討論

司 会：杉山範子（名古屋大学）特任准教授

シンポジウム－10 9月15日（金） B会場（2階・21会議室） 13：30～15：45

「アジアにおける廃棄物処理・リサイクルに由来する環境問題」

オーガナイザー 戸敷浩介（宮崎大学）准教授  
内藤博敬（静岡県立大学）助教

挨拶：戸敷浩介（宮崎大学）准教授

趣旨説明：近年のアジア経済は、開発途上国を中心に急激に成長しており、工業化や都市化、電気・電子機器の普及、モータリゼーションなども進んでいる。また、工業原料や製品及び中古品等の輸出入も活発になっている。これに伴い、廃棄物や排水が増加し、それに含まれる物質も多様化している。しかし、開発途上国の多くは環境保全に関する知見や技術、制度などが十分ではなく、開発途上国における公害・環境問題や、有害化学物質の越境汚染問題などが顕在化している。本シンポジウムでは、ベトナムやインドネシア、バングラデシュ、モンゴルといったアジア開発途上国における廃棄物や排水の増加・多様化に伴う環境汚染の事例に関する知見と、アジア全体における重金属を中心とした汚染やそのリスクに関する知見を共有すると共に、今後のアジアにおける廃棄物処理やリサイクルに関するあり方や日本の役割について議論する。

- 講演者：①「金属資源の国際間移動に由来するリスクをモデルにより評価することは可能か？」  
小野恭子（産業技術総合研究所安全科学研究部門）主任研究員
- ②「アジア大陸からの重金属の越境汚染」  
坂田昌弘（静岡県立大学食品栄養科学部）教授
- ③「モンゴル国と都市化とモータリゼーションに由来する環境汚染が遊牧業に与える影響」  
戸敷浩介（宮崎大学地域資源創成学部）准教授
- ④「Trace metals contamination in surface water and sediments in Chittagong ship breaking area, Bangladesh and ecological risk assessment」  
Mohammad Raknuzzaman (Department of Fisheries, University of Dhaka)  
Associate Professor
- ⑤「バングラデシュの高濃度複合汚染排水のリスク評価と現地で適応可能な除去技術の開発」  
徳村雅弘（静岡県立大学食品栄養科学部）助教
- ⑤「東南アジアにおけるエビ養殖時の廃棄物・排水処理に関する研究」  
内藤博敬（静岡県立大学食品栄養科学部）助教

総合討論

司 会：戸敷浩介（宮崎大学地域資源創成学部）准教授